

コーヒー派？お茶派？～上海喫茶事情～

上海に着任して約3か月が過ぎました。当初中国といえばお茶のイメージでしたが、上海市内を散策すると至る所にカフェがあることに気づきます。

海外の大手チェーンから中国のチェーン店まで、2020年末の上海のカフェの数は約4,700店舗といわれています。その数はニューヨーク約1,500店舗、ロンドン約3,500店舗、東京約3,800店舗を超えて、世界一といわれています。

◆コーヒーの価格帯や味の好み

日本でもおなじみのスターバックスが中国・北京に一号店をオープンしたのは1999年ですが、6,000店以上まで店舗を拡大し、上海だけでも900店舗あり、都市ではどこにでもある馴染みのカフェとなりました。

中国のカフェでのコーヒーの価格帯は15元（約300円）から40元（約800円）前後で日本で購入するものと殆ど変わりません。

中国では苦味が比較的少ない味が好まれるようで、豆も浅煎りが多く、深煎りやハンドドリップでコーヒーを淹れているカフェは少ないようです。

◆まだまだ根強いお茶人気

コーヒー人気は広がっており、週末には各地で様々なコーヒーに関わるイベントが開催されています。今年の5月、私が訪れた「世界コーヒー文化祭」というイベントでは、38のコーヒーショップがブースを出店していました。その中には、アフリカ産の希少な高級豆で淹れたドリップコーヒーを提供するコーヒー店も出店しており、その価格は1杯65元（約1,300円）と金額も通常の2倍程度でした。このように、中国の日常生活に広くコーヒー文化が浸透している状況が伺えます。

一方、お茶はどうでしょうか？中国発祥のお茶文化。やはり現在もお茶は中国人の生活の中で欠かすことのできないものとなっています。私の勤務先では、中国人スタッフがオフィスでマイボトルにお湯と茶葉を入れ、1日に5～6回はそれを繰り返し、お茶を飲んでいる様子を目にします。スタッフからは、中国茶にも色々な種類があり、気分により茶葉を替えて楽しんでいることを聞きました。私もコーヒーだけでなく、中国茶も味わいながら、中国の文化に触れていきたいと思えます。

（上海トレーニー 市川 岳史）



「世界コーヒー文化祭」での
コーヒー提供の様子



中国人スタッフのマイボトル

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/

本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。